

## 2018年6月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずの中心はグリーンランド側に偏った。北米～大西洋北部、及びユーラシア大陸北部で波列パターンが卓越し、英国付近、中央シベリア付近で正偏差、カナダ東部、ロシア西部、東シベリア南部～オホーツク海で負偏差となった。200 hPa 風速をみると、寒帯前線ジェット気流はユーラシア大陸北部で南北に蛇行した。日本付近～その東海上では、偏西風は平年の位置と比べて北寄り flowed。海面気圧は、英国付近、東シベリア海付近で正偏差、西シベリア付近、東アジアで負偏差となった。太平洋高気圧は日本の南東海上への張り出しが平年と比べて強かった。850 hPa 気温は、米国付近、英国付近～黒海付近、中央シベリアで高温偏差、カナダ東部、ロシア西部、オホーツク海付近で低温偏差となった。熱帯の対流活動は、平年と比べて、フィリピン周辺～北太平洋中部の北緯10度帯、中米付近で活発、インド洋中部、西部太平洋赤道域～南太平洋熱帯域の中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の上旬にインドネシア付近を東進した。対流圏上層では、中米付近を除く北半球の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。北アフリカ～日本の東海上では波列パターンが見られた。対流圏下層では、北アフ

リカ～北米の広い範囲で低気圧性循環偏差となった。上旬にはモンスーントラフの深まりが見られた。海面気圧は、赤道域の広い範囲で正偏差、フィリピンの北東海上で負偏差となった。南方振動指数は-0.3だった。

### 世界の天候

2018年6月の世界の月平均気温偏差は+0.28°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、5番目に高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71°C/100年（速報値）である。

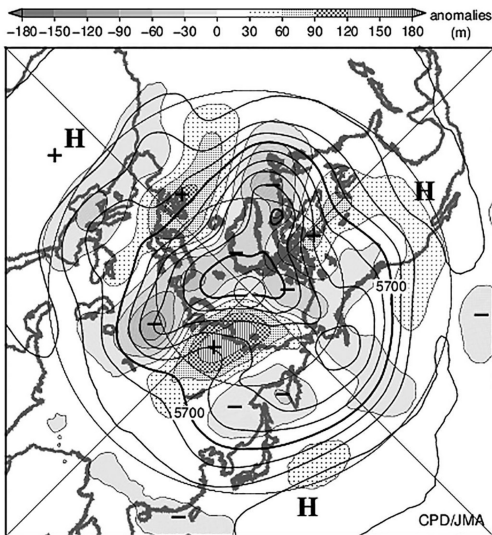
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- シベリア北部～東アジア北部、中東及びその周辺、米国東部～メキシコ北部で異常高温となった。
  - ヨーロッパでは、中部及びその周辺で異常高温と異常少雨、南東部と南西部で異常多雨となった。
- （気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

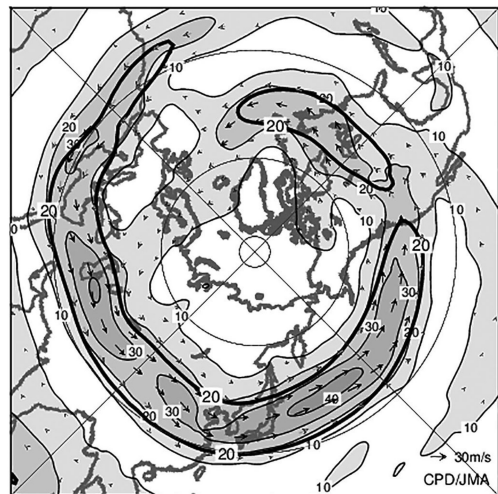
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

「気候系監視速報」をご覧ください。

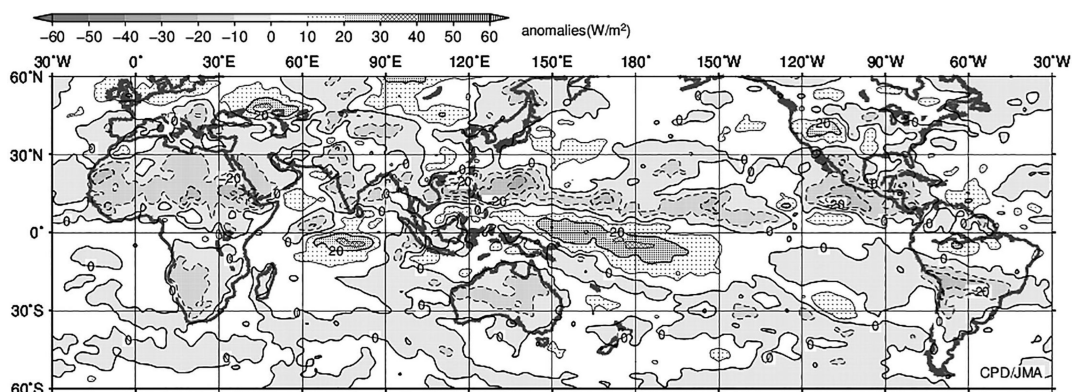
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



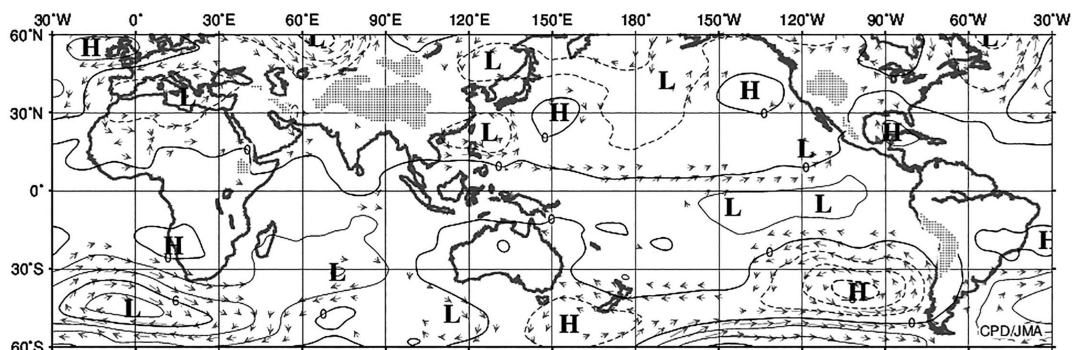
2018年6月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差  
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



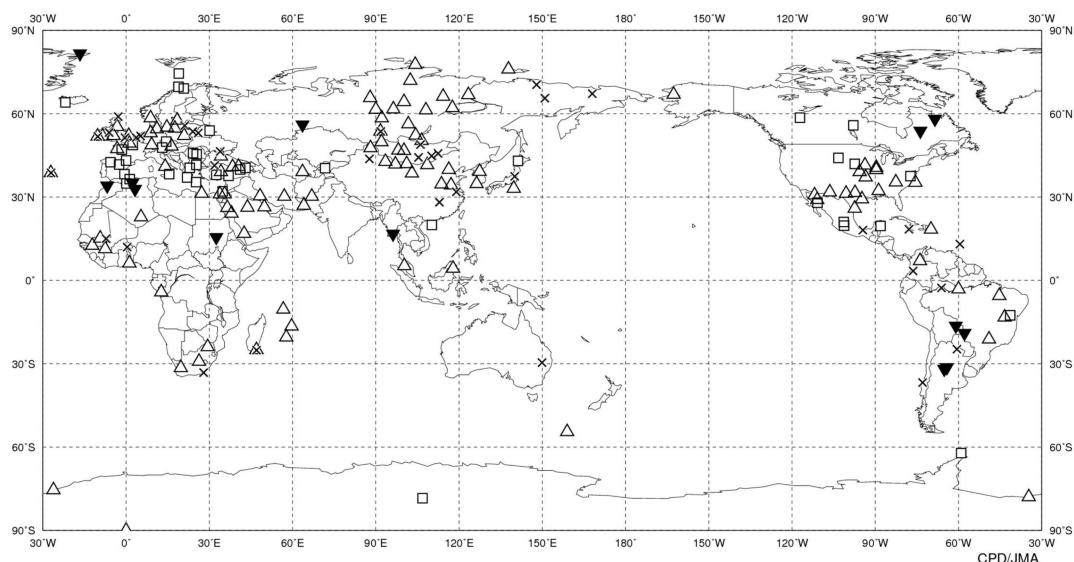
2018年6月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル  
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年6月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋  
 大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。